

ベトナム・ホイアン市におけるエコシティ実現に向けた電動アシスト自転車等の普及活動

活動地域  ベトナム

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発

電動自転車利用実態
宿泊施設貸出 **94回**

電動自転車利用実態
住民貸出 **1,150回**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **90%**



ホイアン市でのプロモーション活動

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

電動アシスト自転車の充電トラブルが生じ、充電器の回収、交換、予備購入等の対応と同時に、貸出先への原因調査や充電器の取扱い説明の徹底に追われたこと。

■ 工夫した点

利用者を増やすため、新しい宿泊施設やカフェに協力を求めたり、近隣都市の大学・大学生へ貸出や試乗会を行って電動アシスト自転車の普及に努めたこと。

課題

エコシティであるホイアン市でも、この数年で自転車からバイク（電動バイクも含む）の急速な転換がみられ、環境だけでなく、市民生活の安全等にも影響が懸念されている。

目標

ホイアン市の規模・地理的特性ではバイクの必要性は高くないため、電動アシスト自転車の利便性・安全性を広く市民に普及啓発し、利用増加を図り、環境負荷を軽減していく。

活動内容と成果

- 交通量調査や構内駐輪調査により、市内交通量の増加や通学でのバイク移行をデータで示せた
- 電動アシスト自転車の貸出は、宿泊施設等3か所/94人回、住民9世帯/1,150人回の利用を達成した
- ハノイ土木大学やフエ市の学生にも貸出し、514人回の利用とアンケート（8人）の回収ができた
- ダナン建築大学では、試乗会やアンケート（30人）、エコ交通の講演（約50人）を実施した
- 他地域（ホイアン市、ティニン市、タイビン市）で本活動のプロモーションを行い、タイビン市で可能性が見い出せた



交通量調査の様子（学生協力）



電動アシスト自転車の宿泊施設での貸出

全助成期間の活動を振り返って

電動アシスト自転車は高価であるため、個人所有へのハードルは高いものの、利便性、安全性の点では、普及の可能性を確信できた。特に、環境への取組み意識の高いホイアン市では、意欲的な宿泊施設も多く、今後開拓していけば、民間レベルでも、観光から環境改善に貢献が期待できる。また、ハノイやフエの学生への貸出を通じ、地域差や利用者層のニーズの違いを集約でき、地域性を考慮した自転車利用促進の必要性を強く感じている。

〒114-0014
東京都北区田端2-4-19
電話：03-6914-3404
E-mail：carfreedayjapan@cfjapan.org
HP：http://www.cfjapan.org/



今後の展望

活動拠点のホイアン市では、宿泊施設や住民の反応がよく、今後も望むところにはカウンターパートが管理を行いつつ、貸出を継続する。他都市への展開として、平坦な地形のタイビン市で、電動アシスト自転車を含む自転車利用促進活動を行う予定である。また、大都市のハノイにおいても、ハノイ土木大学の研究室と継続的に協働し、電動アシスト自転車の貸出を行いながら、公共交通を補足する末端交通としての在り方を模索していく。